

進路だより 2021 12月号

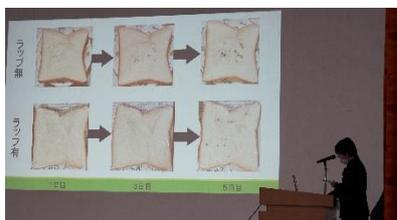
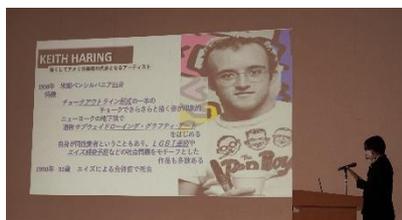


発行：長崎県立佐世保東翔高等学校進路指導部

本校では、1年生では「産業社会と人間」の時間を「創造Ⅰ」、2・3年生では「総合的な探求の時間」をそれぞれ「創造Ⅱ」「創造Ⅲ」と呼んでいます。その中で、いろんな進路学習をしています。その様子を少し紹介します。

【創造Ⅲ】

3年生は、最後の集大成として、各個人で研究テーマを決め、仮説を立て、それを実証するために、実験やフィールドワークを行い、それをプレゼンテーションにまとめ、発表をし、論文にまとめる、というのが、卒業要件になっています。その学年発表会が11月19日（金）に行われました。各分野で選ばれた代表13名が発表を行い、3年4組の山口立夏さんが12月17日（金）に行われる県の課題研究発表会に参加します。また、2月には創造発表会が行われますが、そこでは4名の3年生が発表します。



【創造Ⅱ】

11月1日（月）～2日（火）にかけて、修学旅行研修が実施されました。1日目長崎市内自主研修、2日目ハウステンボス研修が行われました。長崎にもまだ知らないことがあり、1泊2日でしたが、有意義な研修になりました。これも2月に実施される創造発表会で発表が行われます。



【創造Ⅰ】

11月1日（月）に長崎県立大学三浦佳子先生に来校いただき、「グローバルに必要なこと」というテーマで講演をしていただきました。また、11月15日（月）には長崎短期大学の留学生（ミャンマー・ネパール・中国・スリランカ・台湾出身）12名による異文化ミニレッスンが行われました。



【企業人インタビューより】

芸術文化観光専門職大学学長 劇作家・演出家・青年団主宰 平田オリザ氏

『初めはきっと「わかりあえない」。でもそんな“対話”から希望は生まれる』

今や価値観もライフスタイルも多様化しているうえ、国籍も文化も異なる人々と共存する時代です。要するに、同じ日本に住む人同士でもバラバラ。基本的に、人間はわかりあえないのです。そうしたなか、心からわかりあえることを前提としたコミュニケーションを考えるのか。それともわかりあえない人間同士が、粘り強く、どうにかして共有できる部分を見つけ出すことから始め、そこに少しの喜びや新たな発見を見いだそうとするのか。その差は大きいと思っています。

だから私は高校生に、対話やコミュニケーション教育によって、人と人とがわかりあえるバラ色の未来が開けるんだ、などとは言いません。けれど希望を込め、こう伝えるようにしています。「心からわかりあえないんだよ、すぐには」とか、「心からわかりあえないんだよ、初めからは」と。

私なりに定義すると「対話」とは、異なる価値観や文化的背景をもつ人たちとの価値観のすり合わせ。あるいは、知った人同士でも、何かに直面して価値観が分かれたときに起こるやり取りのことです。(中略) 対話的な精神とは異なる価値観をもつ人との出会いによって自分の考えが変わることを潔しとする態度。さらには、そこに喜びさえ見いだす態度のことではないでしょうか。

(株式会社リクルート「Career Guidance 2021MAY Vol.437」より抜粋)

【12月・1月の進路行事】

- 12月16日(土) 1・2年県下一斉実力テスト
- 1月15日(土) 大学入学共通テスト1日目
- 1月16日(日) 大学入学共通テスト2日目
- 1月15日(土) 1年ベネッセ総合学力テスト
- 1年学研Vステップテスト
- 1月25日(火) ~ 28日(金)
- 3年生学年末考査

